

# 井原市ふれあいセンターだより

NO.60

発行 井原市ふれあいセンター  
所在地 井原市神代町2192-1 TEL 63-2929  
E mail furesen@ibara.ne.jp  
URL http://www.ibara.ne.jp/~furesen/

平成24年3月15日



(「センターまつり」より)

## きずな 「絆」から思うこと

井原市ふれあいセンター運営委員会

副会長 片岡 幸政

3. 11の大震災以後、被災地に向けて様々な物的・人的支援や応援のメッセージが、日本全国、世界各国から寄せられ、復興

が一步一步進められていますが、早や1年が過ぎようとしています。そんな状況下で、わたしたちは「絆(きずな)」という言葉を、度々見聞きするようになりました。2011年の「今年の漢字」第一位は、みなさんご存知のとおり、この文字でした。

一口に絆といっても、家族の絆、地域の絆、職場の絆、様々な絆があります。そんな、人と人とのつながりが、昨今とみに薄れてきていると、社会を憂慮する声が聞かれます。

我が国は戦後高度経済成長を経て世界有数の経済大国となりました。その結果私たちは、便利さや快適さ等の様々な豊かさを獲得しました。しかしながら、それらを追い求めていく社会的なしくみの中で、知らぬ間に大切なものを忘れかけていたようにも思います。

復興のキーワードとしての「絆」を越え、「絆」という視点で、今一度わたしたちの家庭を、地域社会を、日本社会の在り方を、そして一人一人の在り方を捉え直してみたいものです。

ところで、学校は「公共性」を育てる場であると言われます。次世代を形成する社会の一員として必要な資質や能力を身に付けるということです。学力をはじめ、社会的なルールを守る力、コミュニケーション力、人と人との「つながり」を大切に、支え合い共に高まり合う力等、元々、どの学校でも目指していることがらではありますが、改めてそのような教育の必要性：時代の要請を感じさせられる今日この頃です。実を言うと、これは人権教育を構成する基本的な要素でもあります。

私事ですが、わたしは毎朝校門に立ち、児童の登校を待ち受け、あいさつ運動をしています。たかがあいさつ、されどあいさつ。あいさつは、人と人をつなぐ第一歩と考え、継続していこうと思っています。それぞれの立場から、できることを自ら始められる2012年でありたいものです。

最後に、今年もふれあいセンターでの講座や研修、事業が、より多くの「人と人をつなぐ拠点、かけ橋」になってほしいと願っております。



(ともだち大好き)

# ふれあいニュース

## ふれあいセンターまつり (2月12日)



(こだま園・芳井ふれあい作業所)



(1階ロビー風景)



(茶道講座の茶席)



(人権運動井原の会  
「うどんコーナー」)

快晴の穏やかな日に恵まれ、大勢の人でにぎわった「センターまつり」でした。稲倉、県主、木之子、荏原、野上の5地区の恒例の展示に、今年は芳井公民館の展示が新たに加わりました。

また、当センターの講座や同好会の作品と活動の様子の発表もありました。

さらに、市内の諸社会福祉施設の紹介や諸団体の協力もこの日を盛り上げるものになりました。



(太陽の会「コーヒーコーナー」)



(2階展示コーナーの様子)



(芳井公民館)



(五味会の展示)



(パソコン同好会)



(陶芸講座の作品)



(書道講座と生花講座)

## 親子そば打ち体験会(12月11日)

今日、ふれあいセンターで、そばを作りました。最初に、先生がお手本を見せてくださいました。やるが多かったので、この時間に終わらせることができるのかな、と思いました。

はじめの「水回し」はなかなかできなくて、少しやる気をなくしてしまいました。次に「練り」をしました。先生がされたようにはできなかったのですが、改めて、先生はすごい!と思いました。次の作業の「つぶし」「丸出し」は、先生にアドバイスをもらいながらやりました。それから、「四つ出し」「肉分け」をしました。これは、ほとんど母がやりました。「本のし」「仕上げ」も母がしました。なぜか、その次の「たたみ」だけは、やった記憶がありません。最後のきる作業は、母と妹の葵がやりました。できたそばは、すごくおいしかったです。



(荏原小学校5年 石原伊織)

## 小学生習字教室(1月5日)



28名の子どもたちが、書初めに参加。「もう1枚書いてみよう」という祖父母の方の励ましの声かけもあり、辛抱強く取り組むことができました。

何よりも感激したのは、会場の片付けをしてくださった<sup>そうかい</sup>爽やかな心意気とパワーです。

作品は、2月12日の「ふれあいセンター祭り」で展示しました。



## ふれあいコンサート(2月4日)



堤友彦<sup>つみつともひこ</sup>さんと母親の恵子<sup>けいこ</sup>さん、父親の正典<sup>まさのり</sup>さんによる「キーボード弾き語り&トーク ~笑顔の明日をつかもうよ~」コンサートを開催しました。1年に1回あるか、ないかという正典さん一緒に演奏会で、幸運に恵まれたコンサートでもありました。

笑顔の素敵な友彦さんの優しく張りのある歌声、恵子さんの明るい語り、正典さんの家族を陰で支えるギターは、さまざまな困難やその中で出会う喜びを奏でるものでした。そして、夢と希望をつむぎ続けることを止めてはならない、というお話に感銘を受けました。

## 人権教育講演会(3月3日)

水川敦之<sup>みずがわあつゆき</sup>先生(元真備町教育長)による講演会を催しました。演題は「ちょっと立ち止まって、考えてみませんか」です。

わたしたちは、自分の判断基準を「慣習」や「多くの場合、そうだから」などの社会的な枠組みと価値観に求めがちです。人権認識についても、無自覚のうちにこれに左右されることがしばしばあります。

水川先生は、傷つきやすい相手の気持ちに立って、ものごとを見ていく視点や角度を変えていったり、自分の枠組みの外に出てみる努力をしたりすることの大切さを訴えられました。

しばし立ち止まって考えていく時間を持つことのできた講演会でした。



(井原市人権標語コンクールより)

《編集後記》 東日本大震災と「フクシマ」から1年が過ぎました。現地はまだに生活の建て直しを見通すことができない状況です。原子力発電についての批判は、「フクシマ」以前は沈黙を強いられる雰囲気がありました。そして今、一部では「原発を止めれば、日本経済は立ち行かない」という話も飛び交っています。ロラン・バルトはこう言っています、「ファシズム、それは発言を『禁する』ものではなく、発言を『強要する』ものである。」発言の禁止と強要は形を巧妙に変えながら、私たちの内に忍び込んでいきます。それに気づかせてくれている「フクシマ」でもあります。